

## 論文審査の結果の要旨

申請者氏名 清水 夏樹

---

中山間地域では、高度経済成長期以降、過疎化・高齢化により農林業の担い手が不足したため、農林地の荒廃が問題となっている。本研究は、中山間地域の農村基盤を生活と生産の両側面から物理的基盤、社会的基盤として捉え、「人」による構造化のもとで持続的な管理が行われるために必要な条件整備とその整備方法を明らかにすることを目的とした。なお、必要な条件整備とその整備方法は各地区の地域性と強い関連性を有するため、農村基盤の状態により類型化を行い、類型ごとに整備すべき条件と整備方法を明らかにした。

本論文は8章で構成されている。第1章では、研究の背景を述べ、研究を進めていく上でのフレームおよび目的を述べている。第2章では既存の研究を整理し、本研究の独自の視点を述べている。

第3章では、持続的な農村基盤の管理のプロトタイプを作成し、それについて詳述している。最も優先的に整備すべき基盤を「人」とし、物理的・社会的基盤の各々について具備すべき条件を示している。それは、物理的基盤に対応した社会的基盤の確立、地域の特性に応じた基盤条件の整備、条件に優先度を考慮した段階的な整備、オープンな管理体系の構築を原則としている。

第4章では、「傾斜」と「都市までの距離」の2つの指標によって中山間地域を類型区分し、急傾斜山村、緩傾斜農村、都市近接農山村の3つに類型区分している。さらに、各基盤の状況を表す31変数を用いて判別分析を行い、その結果から各類型の農村基盤の状態を把握し、それらに適応した管理方式を提案している。急傾斜山村は、生活に関する物理的基盤の整備による「人」の確保を優先課題としている。緩傾斜農村は、生産の物理的基盤と同時に社会的基盤を整備することにより、基盤管理主体を確保することを優先課題としている。都市近接農山村では、都市との良好なアクセス条件を活用して都市住民のレクリエーション的参加を組み込んだ管理方式を作成し、その受け皿としての社会的基盤の存立と物理的基盤の質の維持を優先課題としている。

第5章では急傾斜山村地域について、管理方式を事例調査から検証している。山形県大江町で交付された山村地域活性化交付金は、小規模な生活の物理的基盤の整備と社会的基盤の維持のために利用され、集落世帯数の減少の抑制と帰省世帯数の維持が図られている。愛媛県久万町や徳島県木屋平村等では、第三セクター会社などの社会的基盤に「人」が参加しやすい条件を整備することにより、U・Iターン者の雇用を実現している。長野県長谷村では、住民のニーズに応じた補助金・助成金が直接的に支払われることによりU・Iターン者の定住を図り、新潟県大和町では集会施設の建設により集落組織の活動や高齢者の生活が支援され、若い農家人口の定住が推進されている。

第6章では緩傾斜農村地域について、管理方式を検証している。大分県竹田市九重野地区では、圃場整備による生産の物理的基盤の改善と同時に生産に関する組織が設立され、

土地利用調整や生産，加工部門で相互に連携し，効率的な生産，担い手の確保，地域内での加工を実現している。広島県千代田町では，第三セクターにより町内の条件不利農地の作業が受託され，各地区での優良農地の利用集積を促進し，効率的な生産を可能にしている。岡山県作東町では，専業農家グループにより，共同販売・新規就農者支援が行われ，担い手が確保されている。

第7章では，都市近接農山村地域について管理方式を検証している。千葉県鴨川市大山地区では，棚田保全を目的とした社会的基盤が設立され，都市住民とのパイプラインの役割を果たすことによって棚田の管理が継続されている。長野県更埴市姨捨地区においても地区の社会的基盤を受け皿に，都市住民による棚田の管理作業と管理経費の負担がなされている。長野県軽井沢町の星野リゾートでは自然観察のガイドサービスの提供により経済収入を得，自然観察に適した周辺環境を維持管理している。

第8章では，これまでの結果をまとめ，農村基盤の持続的管理における政策課題を述べている。

以上を要するに，本研究は，中山間地域における持続的な農村基盤の管理のための条件およびその整備方法を各地区の持つ基盤の状態と特性に対応して明らかにしたものである。以上の結果は，わが国中山間地域における政策課題に関して新しい知見を得るものであり，学術上・応用上の価値が高いものと評価できる。よって審査委員一同は，本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。